

平成26年度 府立野崎高等学校 第一回学校協議会 議事録

日時 平成26年6月13日

15:00～17:00

於 本校図書室

司会 水元教頭

記録 本田 広大

水口 裕介

●参加者

<協議会委員> (○印が会長)

○瀬島委員、鳶岡委員、笹尾委員(欠席)、尾崎委員、梅本委員、西本委員

<事務局>

村田校長、南畑教頭、水元教頭、樋口事務長、榊首席、佐野首席、和田教諭、宮崎教諭、前田教諭、諫山教諭、番本教諭(欠席)、本田教諭、水口教諭

●本日の議題

学校経営計画について、各分掌長からの報告、本校の広報活動について

[1] 今年度の学校協議会をはじめるにあたって

◆会長の選出

会長に瀬島委員、副会長に鳶岡委員が就任。

[2] 学校からの報告

◆校長から今年度の学校経営計画の説明

・めざす学校の姿

「一人ひとりを大切にする学校」

①生徒の自己実現を最大限に支援する学校

②全ての生徒が安心して生活できる学校

③地域としっかり連携して、生徒を育てる学校、この3つをもとに重点課題を設定。

・今年度の重点課題

①生徒の自己実現を図るための学力、体力の育成

ICT等の活用による「わかる・できる」授業、3つのコースの一層の充実、キャリア教育プログラム構築、実技、実習、実験等の工夫など

②安全安心の学校づくり・・・人権尊重の意識、規範意識、マナー、社会性、協調性の育成、学校安全の確保

人権教育の推進、部活動の活性化、教員研修の拡充、学校環境の整備、遅刻や問題行動の減少、相談・支援体制の充実、挨拶、清掃の奨励など

③地域と連携した信頼される学校づくりのさらなる推進

中高連携、里山保全ボランティア、地域清掃「野崎レポリューション」、公式ブログ等広報活動の推進、PTA、同窓会等と連携した学校行事の充実、企業・大学等との連携推進など

◆生徒指導について（生徒指導担当より）

・生徒指導状況

5つの柱を元に問題行動が起こる前の事前防止に力を入れている。具体的には、あいさつや仲間づくり、清掃に重点をおくことで、生徒たちが自分の居場所を見つけ、自己有用感を高めていくことをめざしている。問題が起こってから指導するのではなく、生徒の自尊感情や自主性等を育みながら、問題が起こらないようにしていくのが生徒指導であると考えている。

・5つの柱

① 挨拶の徹底

挨拶は生徒指導の原点。教員一丸となって朝の校門での挨拶、授業の開始時、終了時の挨拶を徹底している。また、今月行われた挨拶強化週間では各部活動の生徒の参加もあり、より盛んに行われた。

② 地域清掃「野崎レポリューション」のさらなる推進

地域貢献の目標もあるが、「自分は必要とされている」「自分は地域の役に立っている」といった生徒の自尊感情を高めるねらいもある。今年度5月28日の野崎レポリューションには143名が参加。

③ クラブの加入率アップ

昨年に続き、新入生からクラブに関するアンケートを取り、顧問の先生にフィードバックした。しかし、前年度ほどの成果は得られず、加入率は減少傾向にある。また、アンケートによると、アルバイトをする必要があるので部活動に参加しないと答えた生徒が非常に多かった。

④ 服装指導

38期生から新制服になり、指導基準も改定した。上級生とは異なった、より厳しい指導基準にしたため混乱が起きるのではと心配したが、今のところは大きなトラブルは無い。また、身だしなみセミナーを制服業者に依頼し、外部の講師を活用することで生徒が自発的に身だしなみを整えていくように促している。しかし、まだ生徒たちが自発的に正しく着用しているレベルまでには達しておらず、学校行事やクラブ活動等を通じて学校に対する誇りや帰属意識、自己有用感を高めていくことが、着こなしの向上につながると考えている。ただ、分野別説明会などでは、受験をしに行く時の服装で指導するべきではないかという意見が出た。そのため、学校指定のセーター・ベスト着用はどうするのかという議論が生じた。学校指定のものであっても、防寒着としての季節外れの着用は、おかしいのではという意見もある。親がお金を出していても、制服は基本的には、カッター・スラックス・スカート・ポロシャツになるので、あくまでベスト・セーターは着させない。ただ服装指導の際の反発はあまりなさそうな感じであった。

⑤ 登校遅刻者数の減少

遅刻をしてはいけないという意識付けを強く持たせるために、連続で遅刻指導に呼ばれた生徒に対して、指導のハードルを上げている。現在のところ、昨年度に比べ遅刻者数は減少している。

上から押さえつける指導だけではなく、なぜ遅刻がいけないのかということ、進路のことなどと交えて説諭をして、生徒自ら行動を見直していくように促す指導をしている。きめ細かく丁寧な指導で生徒たちとの関係を作っていく。

◆進路指導について（進路指導担当より）

・進路指導状況

平成25年度は進路が未定のまま卒業していく生徒が大幅に減少した。また希望進路を持つ生徒も増加した。要因としては1年次からの進路指導、生徒指導、服装指導が効果的であったことが考えられる。これからは高校

生活の中で何か1つでもいいので継続して取り組めるものを持たせたい。それが卒業後に困難な出来事に遭遇した際に乗り越えられる、乗り越えようとする姿勢につながると思われる。

平成25年度36期生の進路状況としては、進学が73名で全体の40.5%、就職が77名で全体の42.8%、未定・その他は30名で全体の16.7%であった。特に就職は、77名中55名が学校紹介の就職であった。

昨年度からの新たな取り組みとしては基礎学力診断テスト、外部講師の活用などがある。基礎学力診断テストは継続して実施することで個々の得意・不得意また進路実現のために何が必要なかを生徒にフィードバックできる。外部講師の活用は、外部の方に直接来て講義してもらうことで生徒がより具体的に進路に対してイメージすることにつながる。また、今年度の傾向として、37期生の進路希望状況の未定・その他が0という結果が出たが、4月段階での未定0は本校において初めてのことである。また、例年100名前後の就職希望が昨年と比べてもかなり多い120名、全体の67%となっている。2年生で未定だった者が就職に流れた分、未定の数が就職者数を押し上げていると考えられる。

◆広報活動について（広報PTより）

・学校広報活動の概要、活動状況

昨年度立ち上げた広報活動のプロジェクトチームを今年度にもメンバーを入れ替えて立ち上げた。前年度からの継続的な取り組みとして、母校の後輩へエールの手紙の活用や、クリアファイルの作成、中高連絡会への取り組み、中学校訪問などが挙げられる。エールの手紙では生徒会のメンバーも協力しており、中高連絡会でも活用する。クリアファイルの作成は、テーマを決めて美術部やイラスト部に依頼している。中高連絡会は、最大の広報チャンスとして捉え、公開授業のための時間割表や校内教室配置図を配布する。また、各フロアに案内人を配置しエスコートと疑問や質問に対する対応と説明を行う。中学校訪問では、今年度入学してきた中学へ、何らかの形で情報交換を行う。訪問時の土産として生徒情報だけでなく、母校の後輩へエールの手紙や、学校紹介DVDなどを持参する。広報活動を充実させるためには本校の教員間での情報共有が大切である。基本的には今年度、1年間の流れや入試状況の振り返り、また、野崎高校での3年間でどのような生徒に成長してほしいかなどの教育目標を全教員が共通理解していることが重要だと考える。

[3]協議

・広報活動について

委員：学校の広報活動は難しい。学校の特色を考えていかなければならない。広告等の活用はできないだろうか。

長い目で見たときに特色・魅力作りは地道にやっつけていかなくてはいけない。当面の広報活動としては何か体験できるものを作ってみると良いのではないか。授業見学や部活動見学なども体験にすると良いのではないか。

委員：何点か絞ってアピールすると良いのではないか。

教頭：昨年は生徒会がアピールして良かったのでは。

教諭：前は生徒会独自で学校紹介プランを作成し実行した。

委員：生徒会だけでなく卒業生も様々な場面でアピールするのも良いのでは。本学では、実習でお世話になる高校に対して、実習生がパンフレットを持って行きその高校で広報活動を行っている。

教頭：体験入学の際に部活動体験を取り入れるとより良いのでは。

委員：部活動が熱心な学校に対して部活動体験を行うと楽しさが伝わっていた。

委員：大東の杜ネットワークでは大東の自然を紹介している。その中で里山の保全活動や竹林の整備などを行う野崎高校里山ボランティアクラブが紹介されている。

委員：先日行われた大東ロックシティでは野崎高校の生徒も参加していた。優勝は緑風冠高校の生徒たちだった。しかし、そこではなくそのイベントを運営していたのが野崎高校のOBであった。様々な方面で野崎

高校の生徒達が活躍している。

●終わりに

委員：学校協議会では、教員たちの視点である「内からの視点」ではなく「外からの視点」を加えて伝えることで、内からの視点で見えなかったものを知ることが出来る。このことが学校協議会の一番の良いところである。最近私が感じていることは、どこの学校でも挨拶が出来るようになっているということである。学校の門をくぐってから敷地内で会う生徒たちは、生徒たちのほうから挨拶をするようになった。学校にずっといると分からない変化かもしれないが、私たちがたまに学校に入ることを感じることはたくさんある。